

📅 5月8日 グランメッセ熊本

平成26年度特定健診等データ管理システム及び  
国保データベース（KDB）システム操作説明会

## 保険者向け各システムの概要や操作方を説明

開会に先立ち、熊本県国保連合会の松葉利光事務局長が「特定健診・特定保健指導の実施率目標値達成に向けて、最新の情報提供ができるよう国の動向に注視しながら取り組んでいく。また、厚生労働省において国保法に基づく保健事業の実施等に関する指針が4月1日に一部改正され、市町村における健診結果やレセプト情報を活用したデータヘルス計画の策定が盛り込まれた。その計画策定や評価に向けては、KDBシステム等の活用が不可欠であると考えている」と挨拶した。

### 【特定健診等データ管理システムについて】

熊本県内の保険者から104人が出席。

保健事業支援課保険者支援係の担当者から、下記について実務上の処理方法を説明した。

- 1 システムを使用する際の特定健診・特定保健指導の業務の流れ
- 2 基本的な操作方法
- 3 国庫負担（補助）金について
- 4 法定報告について
- 5 システムの機能改善について

このうち5の機能改善の内容は、○現在のSJISからUnicodeへの文字コード変更により、取り扱い可能な文字が増える○マルチウィンドウ対応により本県では最大3画面まで同時起動が可能となる—の2点で、7月末に公開が予定されている。

### 【国保データベース（KDB）システムについて】

保険者や熊本県から138人が出席。

まず、保健事業支援課長からシステムの現状と本会の方針について、「KDBシステムは国保中央会が作成し平成25年10月に稼働予定だったが、本会において稼働試験やデータの確認試験等を行った結果、整合性の取れないデータも多く、保険者に公開できる状態ではなかった。そのため本会では、保険者への公開を遅らせて、不具合等の修正を国保中央会に要望してきた。しかし、現段階でこれ以上公開を遅らせても大幅な改善は見込めないことなどから、5月の公開に踏み切った」と説明したうえで、「まだ不完全なシステムであることを理解して、条件付きでの使用をお願いする」と保険者に理解と協力を求めた。

続いて、保健事業係の担当者から、運用スケジュールや基本的な操作方法について説明した。また、今回公開された中でよく使われる出力帳票を示しながら、使用上の制限や注意点等について説明した。説明の中で、KDBシステムは検証が不十分な部分が多く、今後不具合等のリリースが予想されるため、使用にあたっては十分な注意が必要であることを重ねて強調した。



挨拶する松葉事務局長



担当者が各システムについて説明した

📅 5月22日 グランメッセ熊本

保険者協会特定健診・特定保健指導担当初任者研修会

## 生活習慣病の基礎知識や 栄養指導の流れなどを学ぶ

熊本県保険者協会（保健事業部会）が開催し、県内の保険者と健診・保健指導機関から事務職や保健師、栄養士など156人が参加した。

開会に先立ち、熊本県保険者協会事務局代表である熊本県国保連合会の松葉利光事務局長が主催者を代表して挨拶した。

研修会では、まず、熊本県国保連合会保健事業支援課保健事業係の担当者が「特定健診・特定保健指導について」と題して、「標準的な保健指導プログラム【改訂版】」についての基本的事項を説明した。

次に、済生会熊本病院予防医療センター医長の高尾祐治氏が「生活習慣病の発症及び重症化予防に向けて～健診結果を分かりやすく説明できるために～」と題して、内臓脂肪症候群の疾患概念と病態、糖尿病・高血圧症・脂質異常症等生活習慣病の原因と病態に関する基礎知識について講演した。

最後に、上天草市役所健康づくり推進課管理栄養士の林笑佳氏が「対象者に応じた栄養指導をするために」と題して、保健指導・栄養指導の実際について、健診結果の分析から支援計画作成、対象者との面談（結果説明・目標設定）、支援、6カ月後評価までの流れや注意点を、実際の保健指導で使用している資料等を示しながら説明した。

なお、今回の研修会は基礎編で、実践編は秋ごろの開催を予定している。



生活習慣病やメタボなどについて、初任者にも分かりやすく説明する高尾氏



メモを取りながら熱心に話に聞き入る参加者の皆さん

📅 5月31日 グランメッセ熊本

平成26年熊本県国民健康保険診療施設協議会理事会・総会、国保直診職員研修会

## 平成25年度事業と会計決算を承認

### ○熊本県国保診療施設協議会理事会

理事・監事合わせて8人が出席して開催された。

開会に先立ち、坂本不出夫会長（水俣市病院事業管理者兼国保水俣市立総合医療センター一院長）が「平成26年度の消費税増税に伴う医療費の問題は、税制改革ではなく診療報酬改定に伴う一部上乘せで決着したため、われわれ医療機関の消費税負担もかなり重くなる結果となり、この問題は喫緊の課題として対策を検討しているところである。もう一つ、衝撃的なニュースとして、日本創成会議が『2040年には日本の地方都市の半数が消滅』、

国土交通省も『2050年には全国の6割以上の地域で人口が半減』との試算をそれぞれ発表、国診協関連病院はシビアな対応を求められることになった。今後、医療と介護の一体改革の中で、われわれは地方で急性期から一般・療養・在宅・介護まで強いネットワークを持ち、一定レベルの機能を維持して病院の存在意義を示していかなければならない」と挨拶した。



坂本会長が挨拶し、国保直診が置かれていく厳しい現状を述べた

その後、同会長を議長として協議し、すべて原案どおり承認された。協議事項は次のとおり。

- 1 平成 25 年度事業報告
- 2     "     会計歳入歳出決算
- 3     "     熊本県国保地域医療学会会計歳入歳出決算

### ○熊本県国保診療施設協議会総会

会員施設の代表者など 12 人が出席して開催され、理事会から上程された議案について協議し、すべて原案どおり承認された。

なお、平成 26 年 2 月開催の総会以降、会員のうち 4 施設で代表者の変更があったため、開会に先立って新代表者が紹介された（出席者のみ）。

その他として、10 月に開催予定の第 19 回熊本県国保地域医療学会について、特別講演を漫画家の岡野雄一氏（代表作：自身の介護体験をテーマにした「ペコロスの母に会いに行く」）を講師に迎える予定で準備を進めていることなど、現在の準備状況を事務局が報告した。

### ○平成 26 年度国保直診職員研修会

熊本県国保診療施設協議会と熊本県国保連合会では、国保直診施設職員の資質向上に役立ててもらえるよう、毎年さまざまなテーマで研修会を開催している。

今年度は、熊本大学シニア教授の吉田道雄氏による「元気で安全な病院づくりとコミュニケーション・スキルアップー心のエクササイズのおすすめー」と題した講演で、12 施設から医師や看護師、事務職、医療相談員など約 50 人が参加し、聴講した。



「コミュニケーション術の会得にもエクササイズが必要」と話す吉田氏



講演後、参加者から「自分の病院にどう応用したらよいか」などの質問が出された